

平成20年度の研究交流の概要

1 共同研究

共同研究は、2つのパートからなっている。

第1のパートは、教育ニーズ調査および家族調査の共同研究である。調査項目は3か国で可能な限り共同し、比較研究しやすいものとする。また国ごとの独自の課題の設定を行い、国柄や地域の具体的な教育ニーズの現状把握を行う。これらによって3か国の比較研究をすすめる。

第2のパートは、発達アセスメントおよび発達診断を活用した個人別教育指導計画(IEP)の作成の方法についての事例研究を中心に研究交流をすすめる。

両者をふまえて治療教育プログラムの開発を行う。

第1の教育ニーズ調査および家族調査研究については、今年度は、共通項目の確定と予備調査を実施し、第2回セミナー(平成21年2月または3月予定)で報告する。予備調査は11月から2月の期間とし、予備調査結果を第2回セミナーで報告する(第1回セミナーは、平成20年11月7日～9日または11月28日～30日の3日間を予定)。

第2の個別支援計画(IEP)に関しては上記の研究成果をふまえる必要があることから平成20年度は文献研究および準備期間とし、平成21年度・平成22年度から事例研究およびその分析を始める。

2 セミナー

平成20年11月に第1回「東アジア障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」を開催する(立命館大学、予定)。中国(4名)およびベトナム(4名)から専門家および若手研究者合計8名を招聘し、発達障害児の早期発見・早期対応の現状について研究交流を深める。あわせて、発達障害児のニーズ調査の研究打ち合わせを行い、国際共同研究をスタートさせる。(平成20年11月7日～9日または11月28日～30日の3日間を予定)。

平成21年2月または3月に第2回「東アジア障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」を日本(京都市)で開催する。中国およびベトナムから8名の専門家および若手研究者を招聘し、予備調査結果をもちより、本調査に向けた項目の修正、集計方法、分析方法など研究のすすめ方について検討する。

平成20年度の日本で開催されるセミナーへは、日本開催であるので日本側の共同研究者、協力研究者が中心となってベトナム、中国の研究者との研究交流をはかっていきたい。関係者や若手研究者の参加を積極的に求めていきたい。

3 研究者交流(共同研究、セミナー以外の交流)

平成20年8月に日本側(5名)、中国側(2名)の研究者をベトナム、ホーチミン市およびハノイ市に派遣し、ベトナム側の研究者と交流する。また、ベトナム側の研究フィールド(ヤーディン障害児学校および第1ホープセンター)を訪問し、発達障害児の治療教育プログラムの実際について学ぶ。派遣期間は平成20年8月17日～24日を予定。

平成21年3月の第2回セミナー時に、日本側研究協力機関である京都市発達障害者支援センターを訪問し発達支援の実際を学び、研究者交流をはかる。

平成20年度交流人数・人日数総表

1 相手国との交流計画

(単位：人／人日)

派遣先 派遣元	日本	ベトナム	中国			合計
日本		5/40				5/40
ベトナム	7/27					7/27
中国	8/32	2/16				10/48
合計	15/59	7/56				22/115

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

2 国内での交流計画

21/126 (人／人日)

共同研究の研究課題別の実施計画

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 20 年度	研究終了年度	平成 22 年度
研究課題名	(和文) 特別な教育のニーズ調査に関する調査研究				
	(英文) An research on the examination of needs for special education				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授				
	(英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science , Ritsumeikan University				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen ・ハノイ師範大学障害児教育学科・ 学科長、(中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授				
交流予定人数	① 相手国との交流 (※8月の研究者交流と第2回セミナー(S-2)での 派遣・招聘が共同研究を兼ねているが、明確に区別できないため、交流 人数は項目 11.12 にまとめて記載している。)				
	派遣先	日本	ベトナム	中国	計
	派遣元	(人/人日)	(人/人日)	(人/人日)	(人/人日)
	日本				
	ベトナム				
	中国				
	合計				
② 国内での交流		21/126	人/人日		
20年度の研究 計画(共同研究 の概要、特徴及 び期待される成 果等)	特別な教育のニーズ調査に関する調査研究を日本、ベトナム、中国の 3か国で実施する。今年度は共通項目の設定、および予備調査を行う。8 月に研究者交流をかねて3か国の間で調整を行う。 予備調査結果は平成21年2月または3月に開催されるセミナーで報 告する。				
日本側参加者数					
24名		(14-1 日本側参加者リストを参照)			
(ベトナム) 国(地域)側参加者数					
13名		(14-2 (ベトナム) 国側参加者リストを参照)			
(中国) 国(地域)側参加者数					
8名		(14-3 (中国) 国側参加者リストを参照)			

セミナーの実施計画

整理番号	S-1		
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業 第1回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」		
	(英文) The 1 st seminar on the development of a treatment and educational program for children with developmental disorder in the East Asia on JSPS AA Science Platform Program		
開催時期	平成20年11月(3日間)		
開催地(国(地域)名、都市名、会場名)	(和文) 日本、京都市、立命館大学		
	(英文) Ritsumeikan University, Kyoto, Japan		
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授		
	(英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science, Ritsumeikan University		
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合は必須)	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen・ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長		
	(中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授		
参加者数	①本事業の経費により参加する人数・人日数 (その内、共同研究経費・研究者交流経費により支給するものについてはカッコ内にも記入のこと)		計
	日本側参加者	/ (/) 人/人日	8/24 (/) 人/人日
	(ベトナム) 国(地域)側参加者	4 / 12 (/) 人/人日	
	(中国) 国(地域)側参加者	4 / 12 (/) 人/人日	
	() 国(地域)側参加者	/ (/) 人/人日	
	②本事業の経費の支給を受けずに参加する人数		計
	日本側参加者	20 人	20 人
	() 国(地域)側参加者	人	
	() 国(地域)側参加者	人	
	() 国(地域)側参加者	人	
①と②の合計人数		28 人	
セミナー開催の目的・意義	シンポジウム開催のねらいは、これまで交流の少なかった東アジア地域(3か国、ベトナム・中国・日本)の専門家、若手研究者が①発達障害児の社会的・教育的状況、②治療教育プログラム開発の研究状況を報告・協議し合い、交流することである。これによって研究者交流がすすみ、研究ネットワーク構築の基礎ができると期待できる。		

期待される成果	<p>第1回目セミナーの成果として期待できることは、</p> <p>第1は、研究ネットワークの基盤形成のきっかけとなることである。日本・ベトナム・中国3か国の研究者が一同に会することによって各国の発達障害児の教育・福祉分野の実情把握と研究交流がすすむことが期待できる。</p> <p>第2は、共同の研究目的を確認し合うことによって国際共同研究の基盤づくりが促進できることも重要な成果となろう。セミナーには大学院生をはじめ多くの若手研究者の参加しやすい参加形態を工夫し、多くの若手人材を投入し、将来的な研究ネットワークを形成する基礎としていく最初のきっかけとなることが期待できる。</p> <p>本セミナーの目的の一つに発達障害児の社会的・教育的状況をあげている。障害児や家族のニーズ調査を計画しているが予備調査実施の合意を形成し、次回第2回セミナー時に作成する調査項目案（英文および各国版）の原案を提示する予定であるが、これによって本調査へのファーストステップのなることが期待できる。これが第3の成果として期待できる。</p> <p>なお一第1回セミナーの発表を報告書にまとめる予定である。</p>		
セミナーの運営組織	シンポジウム事務局を立命館大学内に発足させて準備、運営にあたる。シンポジウム事務局は各年度毎に発足させる。		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 金額 1,476,000円 招聘旅費、謝金、報告書印刷費、その他	
	相手国(地域) (ベトナム)	内容 金額 0円 (支度金、自国内交通費のみ負担)	
	相手国(地域) (中国)	内容 金額 0円 (支度金、自国内交通費のみ負担)	

整理番号	S-2		
セミナー名	(和文) 日本学術振興会アジア・アフリカ基盤学術形成事業 第 2 回「東アジア発達障害児の治療教育プログラム開発に関するセミナー」		
	(英文) The 2nd seminar on the development of a treatment and educational program for children with developmental disorder in the East Asia on JSPS AA Science Platform Program		
開催時期	平成 21 年 2 月または 3 月 (5 日間)		
開催地(国(地域)名、都市名、会場名)	(和文) 日本、京都市、立命館大学		
	(英文) Ritsumeikan University, Kyoto, Japan		
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 荒木穂積・立命館大学産業社会学部・教授		
	(英文) Hozumi Araki, Professor, Department of Social Science, Ritsumeikan University		
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合は必須)	(ベトナム国) Nguyen Thi Hoang Yen・ハノイ師範大学障害児教育学科・学科長		
	(中国) 黄辛隠・蘇州大学教育学部・教授		
参加者数	①本事業の経費により参加する人数・人日数 (その内、共同研究経費・研究者交流経費により支給するものについてはカッコ内にも記入のこと)		計
	日本側参加者	0 / 0 (/) 人/人日	7/35 (/) 人/人日
	(ベトナム) 国(地域)側参加者	3 / 15 (/) 人/人日	
	(中国) 国(地域)側参加者	4 / 20 (/) 人/人日	
	() 国(地域)側参加者	/ (/) 人/人日	
	②本事業の経費の支給を受けずに参加する人数		計
	日本側参加者	20 人	21 人
	(ベトナム) 国(地域)側参加者	1 人	
	() 国(地域)側参加者	人	
	() 国(地域)側参加者	人	
①と②の合計人数		28 人	
セミナー開催の目的・意義	第 2 回セミナーの開催によって「発達障害児の治療教育プログラム開発に関する研究方法論」の基礎となる予備調査結果を交流し、本調査に向けての研究交流をおこなう。これによって調査方法を一致させることができ 3 か国の比較研究が可能となる。日本の発達障害児の治療教育プログラムの実施されている現場とその実際の実地視察によって日本の現状の理解を促進する。		

期待される成果	<p>第 1 の成果としては予備調査結果を交流し、本調査に向けての課題を明確にすることができる。研究方法論（特に、調査方法）の研究交流がすすむことが期待できる。</p> <p>第 2 の成果としては、予備調査結果を交流することによって各国の障害児および親のニーズの概要を知り合うことができ、研究目的をより明確にさせることができる。</p> <p>第 3 の成果としては日本の発達障害児の治療教育プログラムの実際を知ることで具体的な理解がすすみ治療教育プログラム開発の到達点と課題を確認し合うことができる。</p> <p>第 4 には、これらをふまえて本研究への足がかりを形成し、その成果の発表形態等についての協議をすすめる契機となることが期待できる（各大学の研究紀要等に研究成果を公表していくことや、各国の国内学会で研究成果を報告することを検討する）。</p>		
セミナーの運営組織	立命館大学内にセミナー事務局（3年間常設予定）をおく。		
開催経費 分担内容 と概算額	日本側	内容 金額	1,699,000 円 招聘旅費、謝金、会議費等
	相手国(地域) (ベトナム)	内容 金額	0 円 (支度金、自国内交通費のみ負担)
	相手国(地域) (中国)	内容 金額	0 円 (支度金、自国内交通費のみ負担)

研究者交流の実施計画（共同研究、セミナー以外の交流）

1 研究者交流（派遣）の実施計画について

国（地域）名	計画
ベトナム	7人 56人日
	人 人日
平成20年度派遣予定総数	7人 56人日

※ 第2回セミナー（S-2）開催中に研究者交流も予定しているが、現時点では日程を明確に区別できないため、交流人数は項目11にまとめて記載している。）

派遣予定研究者リスト

番号	派遣国	派遣研究者		受入側研究者		派遣時期	日数
		氏名	所属・職	氏名	所属・職		
1	ベトナム	荒木 穂積	立命館大学産業社会学部・教授	Nguyen Thi Hoang Yen	Hanoi University of Education, Department of Special Education, Dean	H20.8.17 ～8.20	8
2	ベトナム	竹内 謙彰	立命館大学産業社会学部・教授	同上	同上	同上	同上
3	ベトナム	荒井 庸子	立命館大学社会学研究科・後期院生	同上	同上	同上	同上
4	ベトナム	井上 洋平	立命館大学社会学研究科科・後期院生	同上	同上	同上	同上
5	ベトナム	前田明日香	立命館大学社会学研究科・後期院生	同上	同上	同上	同上
6	ベトナム	HuangXinYin	Soochow University, Department of Special Education, Professor	同上	同上	同上	同上
7	ベトナム	Rui Zhang	Ritsumeikan University, Graduate Student	同上	同上	同上	同上